

(様式1) 実施報告書

1 応募者情報

(1) 応募者団体情報

団体名	岡山市
-----	-----

(2) 都道府県・政令指定都市からの指定の有無及び連携（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

①都道府県・政令指定都市からの指定の有無

(応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載)

○指定の有無 有・無

○指定の内容

②都道府県・政令指定都市との具体的な連携

(応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載)

2 事業の概要

(1) 全体概要

①事業の名称	岡山市における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業
②目的等	<p>1 目的</p> <p>市内において、日本語学習を希望する在留外国人がそのニーズ、生活環境等に沿った、なおかつ、一定の質が担保された日本語学習を受けられる学習環境を整備する。具体的には、有識者で構成された「総合調整会議」で日本語学習環境の方針を確立しつつ、日本語教師、日本語学習支援者、地域日本語教育コーディネーター、行政職員が一体となった教室の開設に取り組む。並行して、潜在している日本語教育人材の掘り起こしや育成、スキルアップも検討する。</p> <p>2 本事業を通じて構築を目指す体制の全体像</p> <p>【現在の状況：図示も可】</p> <ul style="list-style-type: none">・簡易ではあるが過去に行った外国人市民への日本語教育に関するアンケートにおいて、学び直したいが地域日本語教室の存在を知らず独学で日本語を学んでいる外国人市民が一定数いることがわかっている。一方で、地域日本語教室はコロナ禍の影響もあるが定員に余裕はあることから、教室、学習希望者のミスマッチが見て取ることができる。・現在、市内複数個所にある日本語教室は、ボランティア団体等、それぞれの運営者まかせで実施されて

おり、外国人市民に向けて戦略的な日本語教育施策を展開できているとは言い難い。

- ・コロナ禍の影響で一時減少したが、現在、外国人人口は増加傾向にある。在留資格別では、岡山市では留学、永住者、技能実習が多く、その他、家族滞在や特定技能、日本人の配偶者等など働く外国人及びその家族等も一定数に留しており、日本語習得の必要性が高いものと予測される。
- ・市内に12箇所ある地域日本語教室の多くがボランティアを中心とした運営であり、また、教室間の連携は目にみえるかたちで図れていない。
- ・市が実施している日本語教室も、運営を担うボランティアの中心スタッフの高齢化や今後の担い手継など問題を抱えている。
- ・多文化共生に関する関係機関とのネットワークはあるが、日本語教育を軸としたものはない。

【構築を目指す体制：図示も可（上記に構築する体制を追記）】

- ・基盤となる総合調整会議（関係機関等との連携）
行政関係部署、大学等の学識経験者、日本語学校、地域日本語教室、外国人コミュニティー、外国人市民代表、企業代表などにより総合調整会議をつくり、ネットワークの基盤とする。
- ・総括コーディネーターを配置し、関係機関等との調整を行う。
- ・総合調整会議にて日本語教育推進のための方針、施策などを包括的に検討し、日本語教室モデルケース設置など具体的事業を設計する。

(2) 令和5年度事業の概要

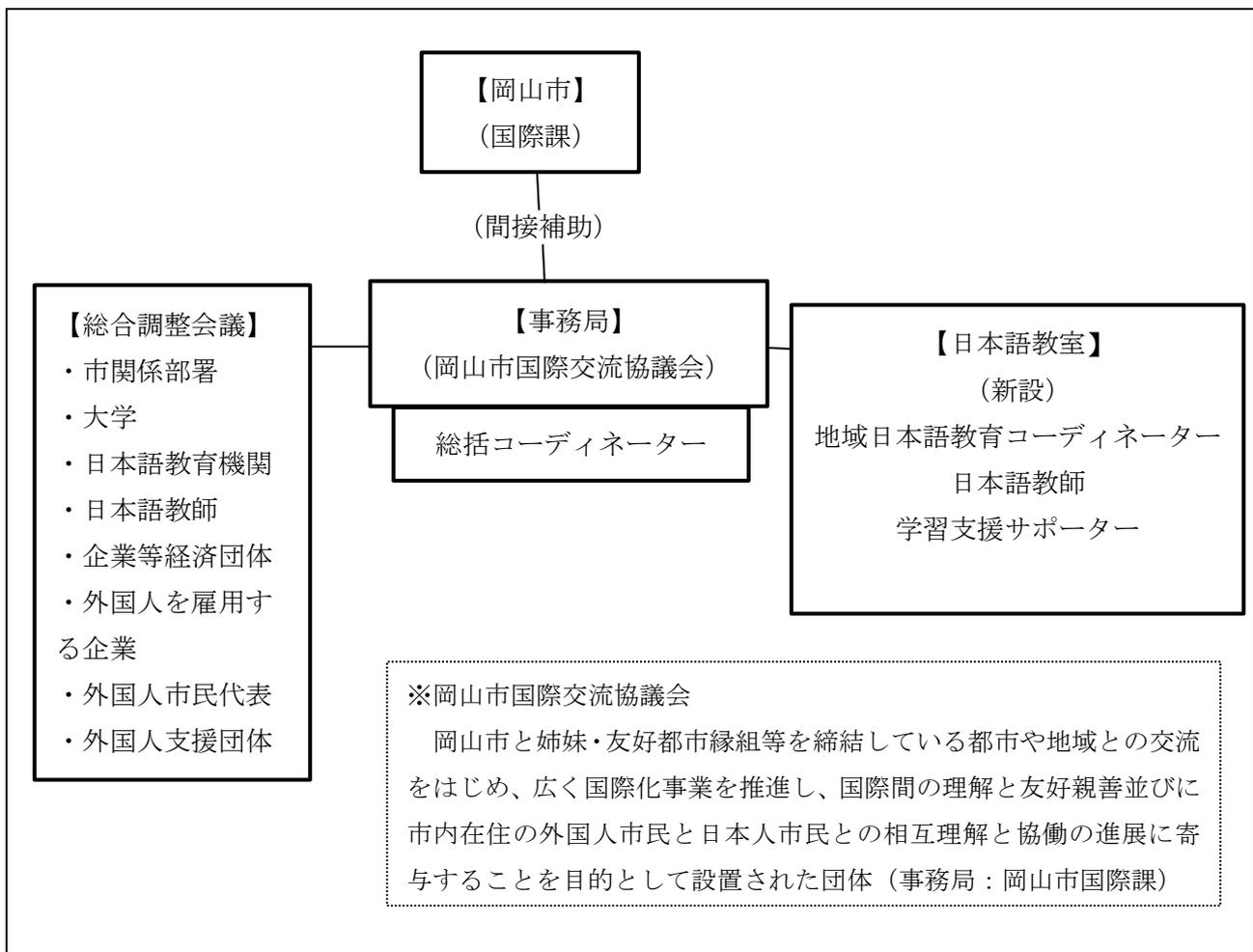
①事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日（12カ月間）
②前年度までの年次計画における進捗状況（新規応募団体は記載不要）	（令和5年度新規応募団体のため記載なし）
③前年度までの成果と課題（新規応募団体は記載不要）	（令和5年度新規応募団体のため記載なし）
④令和5年度の目標	計画の初年度にあたる令和5年度では、市域内における関係機関等との連携構築を図るとともに、設置した総合調整会議、配置した総括コーディネーターによる企画立案に基づき、体系的な日本語教育プログラムを実践する日本語教室を新たに立ち上げ、生活や就労に必要な日本語能力習得を目指す外国人市民の支援を行う。

⑤令和5年度の主な取組内容

- ・総合調整会議の委員を選定し、委嘱、会議を立ち上げ計4回の会議を行った。
- ・総括コーディネーターを配置し、各関係機関との調整を行った。
- ・日本語学習に関する外国人市民、外国人を雇用する企業、ボランティア団体が運営する市内日本語教室へのアンケート調査を行った。(本事業とは別事業として行うアンケート調査内で質問項目を追加して行うものを含む)
- ・地域日本語教育をうえでの基本的な方針となる「岡山市日本語教育基本方針」を策定した。(すでに策定されている「岡山市多文化共生社会推進プラン」の下位計画として新たに策定したもの)
- ・新たに開設するモデル日本語教室を運営するため、地域日本語教育コーディネーター、日本語教師、地域住民による学習支援サポーターを公募、選考し、採用を行った。
- ・モデル日本語教室実施のプレ教室として令和6年3月24日に、地域住民と外国人市民が参加、交流しながら日本語や日本文化を学ぶ「ひなまつり交流会」を実施した。

3 事業の実施体制

(1) 実施体制(図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーター、調査計画推進コーディネーターを含めて記載してください。)



《事業の中核メンバー》				
	氏名	所属	職名	役割
1	岡崎 あゆ美	岡山市国際課 (岡山市国際交流協議会)	課長 (事務局長)	事業統括責任者
2	萩原 良	岡山市国際課 (岡山市国際交流協議会)	課長補佐 (事務局次長)	事務局として事業を推進
3	若林 美緒	岡山市国際課 (岡山市国際交流協議会)	副主査 (事務局員)	事務局として事業を推進
4	金子 万利奈	岡山市国際課 (岡山市国際交流協議会)	主任 (事務局員)	事務局として事業を推進
5	金川 友美	岡山市国際課 (岡山市国際交流協議会)	事務員 (事務局員)	岡山市国際課 (岡山市国際交流協議会)
6	原 明子	岡山市国際交流協議会		総括コーディネーター
7	久保田 雅子	岡山市国際交流協議会		地域日本語教育コーディネーター
8	後藤 真奈美	岡山市国際交流協議会		日本語教師
9	滝澤 彩夏	岡山市国際交流協議会		日本語教師
10	安藤 由文	岡山市国際交流協議会		学習支援サポーター
11	門脇 かな	岡山市国際交流協議会		学習支援サポーター
12	国友 美和子	岡山市国際交流協議会		学習支援サポーター
13	近藤 利哉	岡山市国際交流協議会		学習支援サポーター
14	富山 京子	岡山市国際交流協議会		学習支援サポーター
15	調子 真澄	岡山市国際交流協議会		学習支援サポーター
16	永井 朋子	岡山市国際交流協議会		学習支援サポーター
17	A (氏名非公表)	岡山市国際交流協議会		学習支援サポーター

(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

<ul style="list-style-type: none"> ・新たな日本語教室の設置を検討するうえで、選考事例である総社市で実施している「地域でつながる日本語教室」を視察、情報を提供していただき、行政、日本語教育専門家（教師）、地域住民が一体となって運営する教室の設計を進めることができた。 ・日本語教室の実施場所として公民館を検討するにあたり、教育委員会事務局の担当部署との連携・協力体制を築くことができた。 ・新たな日本語教室運営の中心となる地域日本語教育コーディネーター、日本語教師、学習支援サポーターの公募にあたり、県内で最も大きな日本語学校の協力のもと、同校が所有する日本語教師やサポーターのネットワークに募集情報を共有していただいた。 ・令和6年度より本事業への申請を検討している岡山県（一般財団法人岡山県国際交流協会）と情報を共有

し、今後も連携を図ることとなった。

4 令和5年度の実施内容

(1) 実施内容

1. 広域での総合的な体制づくり				
【必須項目】				
(取組①) 総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	中東 靖恵	国立大学法人岡山大学 学術研究院社会文化科学学域	准教授	委員長として会議 を総理する
2	片山 浩子	学校法人アジアの風岡山外語学院	理事長	副委員長として委 員長を補佐する
3	相原 毅	一般社団法人岡山県国際経済交流 協会	業務執行理事 事務局長	委員
4	青井 由佳		日本語教師	委員
5	謝 芯怡	週末エウレカ	代表	委員
6	バスネット・ナバ ラジ	NPO法人 国際協力研究所・岡山	副代表理事	委員
7	花房 聡子	岡山市立富山公民館	主任	委員
8	廣澤 規夫	株式会社ヤマシタ	営業本部副本部長 人事マネージャー	委員
9	ホアン・ゴック・ ビクチャン	Share & Chill!!!	代表	委員
10	森 祐子	教育委員会事務局学校教育部 学校指導課人権教育室	室長	委員
11	尹 甲辰	岡山市外国人市民会議 (第7期)	委員長	委員
②実施結果				
実施回数	4回			
実施 スケジュール	第1回 (令和5年6月17日) 第2回 (令和5年9月1日) 第3回 (令和5年11月11日) 第4回 (令和6年2月17日)			
主な検討項目	<ul style="list-style-type: none"> ・域内の外国人住民の状況、日本語教育の現状について ・地域日本語教育基本方針の策定について ・新しい日本語教室について 			

	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人市民、企業、日本語教室への調査について ・日本語教師などの募集について ・今後のスケジュールについて
(取組②-1) 総括コーディネーターの配置	
<ul style="list-style-type: none"> ・総合調整会議の委員長、副委員長からの推薦により、日本語教師養成講座修了者であり、過去、ESDコーディネーターの活動実績のある原 明子氏を総括コーディネーターとして委嘱した。 ・令和5年度は事務局と連携し、外国人を雇用する企業を訪問しての調査、策定する日本語教室基本方針のたたき台の作成、新しく開設する日本語教室の設計やそれに伴う日本語教師などの要件を整えるため、関係部署との調整などを行った。 ・令和6年3月24日に開催した、新規日本語教室のプレ教室として位置づけた地域住民と外国人住民との交流会「ひなまつり交流会」の企画・運営の中心となった。 	
(取組②-2) 地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組	
<p>地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】</p> <p>地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援【()】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年3月16日に選考試験を実施し、久保田 雅子氏を地域日本語教育コーディネーターとして採用、同月24日に委嘱した。 ・令和6年3月24日に開催した、新規日本語教室のプレ教室として位置づけた地域住民と外国人住民との交流会「ひなまつり交流会」において、総括コーディネーターを補佐し、企画・運営に携わった。 ・今後、日本語教室での教育プログラムの策定・実施運営及び改善を主として担当していく予定。 	
(取組②-3) 調査・推進計画策定コーディネーターの配置	
<ul style="list-style-type: none"> ・当該コーディネーターは配置していないが、日本語教育基本方針の策定に係る調査や方針のたたき台作成にあたっては、総括コーディネーターも関わり、総合調整会議の意見を反映しながら推進した。 	
【重点項目】	
(取組③) 日本語教育に関する基本的な方針に必要な地域の実態調査、基本的な方針の作成	
<p>国の基本方針を参酌し、岡山市の実情に応じた「岡山市日本語教育基本方針」を策定した。策定に当たっては、総合調整会議の意見を聞くとともに調査を実施し、岡山市の実情に応じた方針となるよう努めた。また、広く市民の意見を聞くため、パブリックコメントを実施するとともに、多文化共生を推進する関係団体で構成される岡山市多文化共生推進ネットワーク会議でも意見をいただき、方針へ反映した。</p> <p>【スケジュール】</p> <p>6月 第1回総合調整会議にて調査内容(案)を図り意見を聴取</p> <p>9月 第2回総合調整会議にて、他都市の事例を示し方針の方向性を諮る</p> <p>9月～11月 調査(外国人市民・企業・日本語教室)実施</p> <p>10月～11月 調査結果をもとに基本的な方針骨子案作成</p>	

	<p style="text-align: center;">場所近辺のスーパーマーケットでのチラシ配りなどを行った。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人参加者への説明（やさしい日本語で話しましょう） ・自己紹介 ・あいさつのことばカルタ ・新しい日本語教室の紹介 ・ふりかえり ・ひなまつりの歌 <p>【開始した月】 3月24日（1回限り）</p> <p>【講師】 3人（うち、日本語教師 3人）</p> <p>【関係機関との連携】 なし</p> <p>「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p>
活動2	<p>【名称】</p> <p>【目標】</p> <p>【実施回数】 回（1回 時間）</p> <p>【受講者数】 人（人× か所）</p> <p>【実施場所】</p> <p>【受講者募集方法】</p> <p>【内容】</p> <p>【開始した月】 月</p> <p>【講師】 人（うち、日本語教師 人）</p> <p>【関係機関との連携】</p> <p>日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：</p>
活動3	<p>【名称】</p> <p>【目標】</p> <p>【実施回数】 回（1回 時間）</p> <p>【受講者数】 人（人× か所）</p> <p>【実施場所】</p> <p>【受講者募集方法】</p> <p>【内容】</p> <p>【開始した月】 月</p> <p>【講師】 人（うち、日本語教師 人）</p> <p>【関係機関との連携】</p> <p>日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：</p>

(取組⑧～⑮) その他の取組
取組なし
2. 市区町村の日本語教育の取組への支援
(取組①) 市区町村を支援して実施する日本語教育
取組なし
(取組②) 取組1以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育
取組なし

5 主要な取組の実施状況

令和5年4月	総合調整会議委員への説明
5月	〃
6月	第1回総合調整会議
7月	総括コーディネーター選考
8月	外国人市民等調査準備
9月	第2回総合調整会議、外国人市民等調査実施
10月	外国人市民等調査実施、日本語教育基本方針骨子案作成
11月	第3回総合調整会議、日本語教育基本方針素案作成、外国人市民等調査実施
12月	日本語教育基本方針素案パブリックコメント等実施
令和6年1月	〃
2月	第4回総合調整会議実施、日本語教室運営スタッフ募集
3月	日本語教室運営スタッフ採用選考試験実施 24日ひなまつり交流会実施 月末 事業終了、実績報告書の提出

6 評価と検証

1. 令和5年度の計画の評価と検証方法
<p>【令和5年度の目標】(再掲)</p> <p>計画の初年度にあたる令和5年度では、市域内における関係機関等との連携構築を図るとともに、設置した総合調整会議、配置した総括コーディネーターによる企画立案に基づき、体系的な日本語教育プログラムを実践する日本語教室を新たに立ち上げ、生活や就労に必要な日本語能力習得を目指す外国人市民の支援を行う。</p>

【令和5年度の目標達成に向けた指標（定量評価・定性評価を含む。）】

- ・総合調整会議の設置、及び、運営
- ・総括コーディネーターの配置、及び、関係機関等との連携
- ・外国人市民の日本語学習目標に合わせた日本語教育プログラムの検討
- ・専門性の高い日本語教師によるモデル日本語教室の立ち上げ

【指標1：定量評価目標】

総合調整会議開催回数（計画 5回/年度）

○目標値 5回（前年度実績 ー）

○実績値 4回

計画の初年度であり、総合調整会議の設置、総括コーディネーターや地域日本語教育コーディネーターの配置など、総合的な体制づくりの立ち上げに取り組むなか、有識者からの助言、指導を得ることができるよう年間5回の会議開催を目指していたが、日本語教育基本方針のゼロからの策定、日本語教師の募集といった事務作業が重なったことから、4回の開催に留まった。しかし、会議以外でも総括コーディネーターを中心に委員長、副委員長と適宜調整は行っており、委員各位とメールを介して意見を聴取するなど、必要に応じて連携を図った。

【指標2：定量評価目標】

モデル日本語教室を活用した学習者数（延べ人数 24回×15名＝360名）

○目標値 200名（前年度実績 ー）

○実績値 36名

当初は令和5年秋頃からモデル日本語教室を開始する予定であったが、総合調整会議において、域内の日本語教育に係る状況を調査し、人材の募集などしっかり準備をしたうえで教室を立ち上げるべきとの意見があり、また、これからの地域日本語教育施策を推進するうえでの指針となる基本方針を策定したうえで、具体的事業を進める方針となったことから、モデル日本語教室は令和6年6月から本格実施することでスケジュールの再調整を行った。当指標の実績値は、令和6年3月24日に実施した「ひなまつり交流会」の参加人数であり、これをもって実績値とした。

【指標3：定性評価目標】

モデル日本語教室を活用した学習者の満足度

○目標値 満足度 80%（前年度実績 ー）

○実績値 満足度 92%（参加者 36名中33名が「とても楽しかった」「楽しかった」と回答。3名はアンケート未回答）

指標2に同じ。参加者に行ったアンケート調査から検証した。

【検証方法】

- ・指標 1 は本市において確認
- ・指標 2 は交流会において集計を行う
- ・指標 3 は交流会においてアンケート調査を行う

【その他】

2. その他、令和 5 年度事業の評価と検証方法

※以下の取組は本事業外で岡山市国際交流協議会として実施した類似の取組（下線部）になります。

【各取組の指標及び検証方法（定量評価・定性評価）】

【取組 1】地域住民と日本語教室の受講生が参加する「やさしい日本語」教室

→地域住民と市職員が参加する「やさしい日本語」講座（令和 5 年度 2 回開催）

（定量評価）参加者数（外国人・地域住民）→（市民・市職員）

今年度目標 40 名→60 名／回（前年度実績：—）

今年度実績 0 名→62 名／回・平均

（定性評価）外国人参加者の満足度→85%

（検証方法）事務局による人数集計とアンケート実施・結果検証

【取組 2】地域住民と日本語教室の受講生が参加する「くらしの教室」講座

→日本語教室の受講生が参加する「くらしの教室」講座

（定量評価）参加者数（外国人・地域住民）→（日本語教室受講者）

今年度目標 40 名→目標なし（前年度実績：—）

今年度実績 0 名→11 名

（定性評価）外国人参加者の満足度→91%

（検証方法）事務局による人数集計とアンケート実施・結果検証

7 検証を踏まえた課題と今後の展望

1. 検証を踏まえた課題と今後の展望

（1）検証を踏まえた課題

- ・「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」は今年度が初年度の取り組みとなり、まずは体制整備から着手する必要があることから、各種調整に想定以上の時間を要した。
- ・過去、簡易な内容で外国人市民アンケートを実施していたことから、当該アンケート結果を前提として新規日本語教室の開設をスケジュールしていたが、より内容を精査したアンケートを行うこと、外国人を雇用する企業や地域日本語教室への調査も実施し、地域の実情を把握したうえで事業を進めていくべきとの総合調整会議からの意見を踏まえ、あらためて調査を行った。
- ・上記の調査結果も反映した「岡山市日本語教育基本方針」を策定することで、今後の地域日本語教育施

策推進の方向性を築くことができた。

- ・総合調整会議の委員からは、日本語教育の人材が不足していることが懸念として挙がっていたものの、新規日本語教室を運営する日本語教師等を公募し、必要人数を確保することができた。
- ・令和6年度から本格実施する日本語教室のプレ教室として実施した「ひなまつり交流会」は、交流を望んでいる日本人の地域住民については想定以上の参加があったが、地域の外国人住民の確保に苦勞した。今後、日本語教室の受講者を募集する際には工夫が必要であることを実感した。

(2) 今後の展望

- ・日本語教師等の募集にあたっては、公募にしたことで県外からの応募もあり、本事業の周知の面も含めて一定の効果があったと思われる。また、結果的に募集人数に対して、選考するほどの応募があり、日本語教育に係る人材は潜在していることも確認できた。
- ・日本語教師以外でも、学習支援サポーターを公募することで、日本語教師の有資格者も含めて、外国人の支援に携わりたい人材が多く存在していることも確認できたが、今後、さらに掘り起こしつつ、どのように育成し、また活躍できる環境を整えていくのかという課題が見えてきた。今後、総括コーディネーター、地域日本語教育コーディネーターが主となって、地域の日本語教育機関と連携するなどにより研修会の実施など人材育成を図っていく。
- ・外国人住民は増加しているものの、(1)に記載した通り、日本語学習を求めている外国人住民にいかにかアウトリーチを行うのか、本格実施を控える日本語教室にとっての喫緊の課題となっている。教室受講者の募集については、外国人コミュニティ、外国人を雇用する地域の企業などへの直接的な働きかけを行いつつ、地域町内会の協力を仰ぎながら周知に努めていく。

2. その他、課題と困難な状況への対応方法等

(1) 課題と困難な状況への対応方法

- ・日本語教師などの募集に際して、地域日本語教育に係る環境改善の意図もあることから、報償額は適切なものとなるよう、他都市への調査も行い検討しながら設定を行った。また、総合調整会議の委員にもご協力いただき日本語教師のネットワークなどを活用することで応募者を集めることができた。
- ・交流会の外国人参加者募集について、応募者が伸び悩んでいたことから、総合調整会議の外国人委員を通しての働きかけ、事務局（国際課）と日頃つながりのある団体や企業のネットワークを駆使して参加者を集めたほか、交流会会場に近いディスカウントスーパーマーケットに許可を取ったうえで、直接外国人買い物客にチラシを配布するなど周知活動を行うことで、何とか人数を集めることができた。

【参考写真一覧】

取組番号	写真名	
1-①	岡山市地域日本語教育推進のための総合調整会議	
		
1-⑦-1	ひなまつり交流会（岡山市日本語教室プレ教室）	
		

【参考資料一覧】

取組番号	資料名	NEWS 掲載
1-③	岡山市日本語教育基本方針	○